

〔注意〕 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。

※出願したコースを○で囲みなさい。

裏面4ページ

平成三十年度 入学試験問題 (国語)

英語
理数
文理
受験番号
氏名

「二」 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

- 問一 次の各文の傍線部の読み方をひらがなで答えなさい。
- ① 人生の重大な岐路に立つ。
 - ② 砂利を運ぶトラック。
 - ③ 余暇の有効活用。
 - ④ 古美術を珍重する。
 - ⑤ 廉価で販売いたします。

問二 次の各文の傍線部を漢字に直しなさい。

- ① 開会式にノゾむ。
- ② アツい水が張る。
- ③ ドウホウの幸福を願う。
- ④ 秋の味覚をマンキツする。
- ⑤ シサに富む言葉。

問三 次の①～⑤の言葉と反対の意味になる熟語を、後の選択肢からそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。

- ① 一般
 - ② 困難
 - ③ 生産
 - ④ 需要
 - ⑤ 未知
- 【 ショウヒ ・ キョウキュウ ・ キチ ・ トクシュ ・ ヨウイ 】

問四 次の各文の単語の数・文節の数を、それぞれ算用数字(1・2・3…)で答えなさい。

- ① 今朝、大きな朝顔の花が、三つも咲いた。
- ② 私は、横浜から電車とバスを利用して、学校に通っています。

問五 次の各文から助動詞を抜き出さなさい。また、その意味を後のア～クからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① まさか、彼はそんなことをするまい。
 - ② 子供の頃のことを思い出される。
 - ③ 彼女は六月に結婚するそうだ。
- ア 受身 イ 自発 ウ 尊敬 エ 打消推量
オ 伝聞 カ 様態 キ 推定 ク 打消意志

問六 次の各文の傍線部の表現が正しい場合にはA、間違っている場合にはBを答えなさい。

- ① あちらの担当者にうかがってください。
- ② 役人の不正が明るみになった。
- ③ 彼女は人懐つこくて、誰にでも愛嬌を振りまく。
- ④ 今日は好きなだけテレビを見させてあげよう。
- ⑤ 去年買ったシャツが今年もまだ着れる。

「二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※1入門してしばらくして、多田先生が道場で言われた言葉について、「あれはどういう意味なのでしょう」と先輩に訊いたことがあります。その先輩は「あれは上級者に向かって言っていることで、われわれ下々のものには関係ないんだ」と答えました。僕はそう聞いて、そのときは「はあ、そうですか」と引つ込みましたが、どうも気持ちが片づかない。なんだかおかしいと思った。先生のおっしゃることのうち「自分が聞くべきこと」と「聞かなくてもいいこと」を彼は区別していた。師の教えのうち「従うべき教え」と「無視してよい教え」を弟子が判定してもよいと彼は思っていたわけです。これは※2先ほどの段位認定の話と同じです。自分がどの程度の練度のレベルにあるのか知っている、自分が先生から何を習えばいいのか知っている、つまり、仮説的にはありますけれど、先生と自分を含めた師弟関係を一望※3俯瞰的に見下ろしている。これは師弟関係になじまない考え方ではないか。たぶん僕の違和感はそのあたりから由来していたのでしよう。

自分に理解できるところ、自分にできるところだけ「つまみ食い」をする。1理解できない教え、実現できない技術は「自分には関係ない」とスルーする。師弟関係の中で師から贈られた技芸を自分で取捨選択する。取捨選択する権利があると思っ

ている。2これは師弟関係では許されないことです。習う立場にあるものは「習うべきこと」と「習わなくてもいいこと」を自分で判断してはいけない。そうしてしまう人は師から受け渡された技術や知識をどこかで「商品」と見なしている。でも、師弟関係で授受されているのは商品ではありません。これは「パス」なんです。学問でも技術でも、その本質は「パス」です。先人から受け取ったものを次の世代に手渡すことです。「買い物」ではありません。

ものを習うときに僕たちは入会金や月謝を払いますけれど、それは教えられる知識や技術に対する「代価」ではありません。

(問題は2ページへ続く)

〔注意〕 解答はすべて別紙解答用紙に記入し、問題も提出すること。

平成三十年二月十日実施 鶴沼高等学校

それを代価だと思ったら、習っているコンテンツは【 】だということになる。【 】であるなら、買った人間が「エンドユーザー」だということになる。そのまま退職しても、変形しても、あるいは廃棄しても、それは買った人間の自由だということになる。商取引というのは、そういうものですから。でも、学ぶというのはそういうことではありません。受け取ったものの「エンドユーザーになる」ということではありません。「パッサーになる」ことです。

これは稽古をすればわかります。稽古をしていて、自分が「エンドユーザー」だと思っていれば、どれほど技が不正確でも、技ができなくても、あまり気にならない。自分の非力で困るのは自分一人だからです。≪ W ≫、弟子を持つ立場になるとそうはゆかない。自分が間違ったことを教えたなら、あるいはできない技があったら、その影響を次世代が蒙ることになる。≪ X ≫、自分が自分の師に就いて学ぶときには全身を耳にして聴く。わからないことがあったら、先輩たちに尋ね回る。「パスする立場」になるほうが「エンドユーザーである」ことよりも、こう言ってよければ、ずっと修業上効率的なのです。

僕が門人たちにできるだけ自立して、自分の道場を持ち、自分の責任で弟子を育てることを勧めているのはそのためです。彼らにもっとも深い稽古をしてほしい。そのためには【 A 】のポジションに立つのがもっとも※4捷徑である。そういう考え方を僕はしています。≪ Y ≫、「そんなに簡単に教える立場になれると思うな」と門人が専門家になることを抑制する指導者もいます。それも一つの見識だと思います。でも、僕は「パス」を回す技術の上達法は「パス」を受け取って、次に送るといふ訓練を繰り返す以外にないと思っています。

弟子が、先生から教わったことのうち「自分宛てのもの」と「他人宛てのもの」を自己都合で仕分けしていたら、そのうちに【 B 】はどれも「他人宛てのもの」だと思ふようになります。そのほうが気が楽ですから。でも、そんなことを続けていけば、やがて「師は自分に向かっては何も伝えていない」と思ふようになる。なにしろ自分ができないことはみんな「上級者宛てのメッセージ」で、その宛て先に自分は含まれていないことになるわけですから、術技が進歩するはずがない。そんなことを続けていると、そのうちに「先生は自分には用がないのだ」と思ふようになる。だったら、こんな道場においてもしかたがない。論理的にはそうなります。

ほんとうにわずかなことなんです。師が伝えることの難易度を弟子が自分で判定して、「これは自分程度の初心者宛て、これはもっと上手な先輩たち宛て」というふうには勝手に仕分けしたら、それだけで【 C 】は終わってしまう。弟子たるものは師からの「パス」は≪ Z ≫でまるごと「自分宛て」だと思わなければならない。理解できない言葉でも、再現できない技術でも、自分宛てに手渡されたのだと思わなければならない。(内田樹『街場の戦争論』)

注釈 ※1 「入門してしばらくして」…本文の筆者は二十五歳のとき、合気道家の多田宏の道場に入門した。

※2 「先ほどの段位認定の話」…本文より前の箇所には、自分には黒帯の実力がないと言いつ張って段位認定の審査を自ら拒否した者の話が書かれている。

※3 「俯瞰」…全体を上から見ること。 ※4 「捷徑」…近道。手っ取り早い方法。

問一 傍線部1「理解できない教え、実現できない技術」に対し、弟子はどうすべきなのか。本文中から二十三字で探し、始めと終わりの五字を抜き出さない。

問二 傍線部2「これは師弟関係では許されない」とあるが、その理由の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が技芸を身につけなかった影響が、後々自分に返ってくるから。
- イ 学ぶべきことを自分は全て知っている、錯覚する危険があるから。
- ウ 学問を買い物だと見なすことが、破門に相当する無礼な行為だから。
- エ 先人の教えが、次世代の人々に十分に伝承されないことになるから。

問三 空欄【 】に共通して当てはまる語を、本文中から抜き出さない。

問四 空欄≪ W ≫≪ X ≫≪ Y ≫に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし記号は一度しか使えないものとする。

ア だから イ もちろん ウ でも エ つまり

問五 空欄【 A 】【 C 】に当てはまる言葉として最も適切なものを、【 A 】は四字、【 B 】は六字、【 C 】は四字で、それぞれ本文中から抜き出さない。

(問題は3ページへ続く)

〔注意〕解答はすべて別紙解答用紙に記入し、問題も提出すること。

平成三十年二月十日実施 鶴沼高等学校

問六 空欄《 Z 》に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 問答無用 イ 諸行無常 ウ 厚顔無恥 エ 感慨無量

問七 本文における筆者の主張と合致するものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学ぶ立場の者は、自分向けに適確なパスを出してくれる師を自ら見極め、その師に生涯就いて学ぶのがよい。
 イ 学ぶ立場の者は、知識や技術を正確に習得することにあまりこだわらない、おらかな構えを持つべきである。
 ウ 学ぶ立場の者は、学習にあたり、いつか自分が他の人に教える立場になることを想定していなければならぬ。
 エ 学ぶ立場の者は、自分の身の程をわきまえ、師から何を学ぶべきかを自分でしっかりと判断できる必要がある。

〔三〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「僕」のクラスメイトであった「ガンリユウ」はクラスで一番大きな女子で、いつも怒っており、負けず嫌いで粗暴な性格ゆえに男子からも女子からも嫌われていた。そのガンリユウが重い病気にかかり入院することになったのだが、数ヶ月後、先生の提案で僕たちクラスメイトは色紙にメッセージを書き、それを渡しに病院を訪れることになった。

付き添いのおばあさんにうながされても、ガンリユウは「いま、いいところだから、ここ読んでから」と①そっけなく返し、本のページをめくる。書店のカバーが掛かった文庫本だった。僕はまだ本を文庫で読んだことがない。文庫本はおとなの読むものだと思っていたし、同級生でも文庫を学校に持ってくる子はいなかった。ガンリユウはおとなになった。ガンリユウが一人きりで過ごすこの世界は、僕たちの世界より早く時間が流れて、早くおとなになって、そして、早く……。

「ごめんなさいねえ、入院してから、すっかりわがままになっちゃったのよ」
 おばあさんは（ A ）言って、先生と二言三言、話をした。両親だけでは付き添いの手が足りないのです、おばあさんも手伝っているのだという。静岡に住んでいるおばあさんは、わざわざ病院の近くにアパートを借りて、昼間はほとんど毎日病室に詰めているらしい。

「親とは違うんで、つい甘やかしちゃうんで、よくないとは思ってすけどねえ……」

おばあさんはそう言って、ガンリユウにまた「ほら、お友だち来てくれてるのよ」と声をかけた。太い眉を（ B ）ひそめて「ちよっと待ってって言ってるじゃん」と返したガンリユウは、また文庫本のページをめくる。僕たちにはちつとも目を向けない。

1 間が持てなくなった美代子が、先生に目配せして、肩に掛けていたバッグを下ろした。

「岩本さん、クラスみんなで寄せ書きしたから……」

色紙を差し出されて、ガンリユウはやつと顔を上げた。文庫本を開いたまま伏せてサイドテーブルに置き、ぶすつとした顔でため息をついて、『終わりの会』でプリントが配られるときのように、片手で色紙を受け取った。

僕もあわてて足を前に踏み出し、「こっちは男子のぶんだから」と色紙をバッグから出した。

ガンリユウは、ふうん、まあどうでもいいけど、という感じで、（ C ）二枚の色紙を膝の上に並べた。

励ましの言葉がクラス全員——三十七人ぶん。みんなガンリユウの体を心配して、早くよくなってほしいと願って、手術が成功することを祈っている。2 きれいな言葉だ。誰一人として悪口は書いていない。嘘をついているわけでもない。だが、そこに書いた言葉がぜんぶほんとうなのかと問い詰められたら、僕にはなにも答えられない。きっと美代子もそうなのだろう、いつも（ D ）胸を張ってひとと会う優等生が、いまはもじもじして、（ E ）色紙からもガンリユウからも目をそらしている。

「あらあら、よかったねえ、お友だちがこんなに書いてくれて」

おばあさんが（ F ）言った。僕たちを見て、にこにこ笑って何度もお辞儀をして、ベッドの上に投げ出したガンリユウの脚を軽くさする。

「タカコちゃん、よかったねえ、お友だちもみんな応援してくれてるねえ、がんばって早く良くなるとねえ……」

ああ、ガンリユウはタカコっていうんだ、と——あたりまえのことなのに、3 胸がどきんとした。「ガンリユウ」は六年二組だけのあだ名で、家に帰れば「タカコちゃん」で、この病院でも「ガンリユウ」なんて呼ぶひとは誰もいなくて、だからもうガンリユウは僕たちとは別の世界にいて、二つの世界は、もう交わることはないのだろうか。

ガンリユウは、じつと色紙を見つめていた。寄せ書きの一つ一つを、ゆっくりと読んでいた。なにもしゃべらない。顔をこっちに向けることもない。長い沈黙の時間が流れた。雪が降り積もるように、うつむいた僕の首筋に沈黙の重みがじわじわとのしかかる。

「タカコちゃん……タカコちゃん、よかったねえ……いいものもらったねえ……早く良くなって、みんなと遊ばないとねえ……」

おばあさんの声は涙交じりになった。よかったねえ、よかったねえ、と泣きながらガンリユウの脚をさすりつづける。パジ

（問題は4ページへ続く）

〔注意〕解答はすべて別紙解答用紙に記入し、問題も提出すること。

平成三十年二月十日実施 鶴沼高等学校

ヤマのズボンの裾がめくれた。向こうずねが見えた。棒つきれみたいに痩せた脚だった。

ガンリユウは黙ったまま、まだ色紙のメッセージを読んでいる。何度か肩を大きく上下させて深い息をつき、そのたびに、頬が少しずつゆるんでいた。

僕は4奥歯を噛みしめる。色紙をひったくって、破ってしまいたくなくなった。こんなもの渡すんじゃないかった、と悔やんだ。ごめん、と謝りたい。もう一度書き直したい。

手を伸ばせば届く。色紙を破ることはすぐにできる。だが、体がこわばってしまって、ただ立っていることでさえ苦しい。ガンリユウは最後に一つ大きな息をついて、僕たちを見た。

「ありがとう」

そっけなく言って、二枚重ねた色紙を軽い手つきでサイドテーブルに置き、入れ替わりに文庫本をまた手に取って開いた。「こだけ読みたいから……」

誰にも訊かれていないのにつぶやいて、一ページめくって、まばたくと、涙が目からこぼれ落ちた。

そのあと、5僕たちは病室でどう過ごしたのか、記憶はあいまいだ。先生が司会になって、みんなでおしゃべりしたのは覚えているが、なにをしゃべったのかは思いだせない。おばあさんがリングを剝いてくれたのは覚えている。テツちゃんがトイレに行つて、おしっこの入ったしびんが置いてあったと騒いだことも忘れていない。なのに、6ガンリユウがどんな表情を浮かべ、どんなことをしゃべっていたのか、どうしてもよみがえってこない。

記憶に鮮やかに残っているのは、すぼん、と時間が飛んだあと——病院前のバス停のベンチで、駅に戻るバスを待っているときのできごとだ。

美代子が、②不意に、しくしく泣きだした。僕たちがびつくりしているうちに、すすり泣きの声は息を継ぐごとに大きくなって、しまいには顔を両手で覆って泣きじゃくった。

謝っていた。色紙に描いた鳥の絵のことだった。しゃくりあげながら、切れ切れに、声が漏れる。あの水色の鳩は、やはり、天国に向かう鳥だった。寄せ書きには「早く良くなってください」と書いた美代子は、絵を描くときには、お別れを覚悟していた。病気で亡くなったあと天国に行けますように、という祈りを込めて、鳩を描いたのだという。

「死んじゃえばいいって思ったわけじゃなくて……ほんとに、もしも死んじゃったら、天国に行けたらいいなって……でも、死んでほしいなんて思ってなくて……絶対にそんなの思ってなくて……お願い、信じて……」

ベンチに座ったまま突っ伏してしまった美代子の背中を、先生は軽く拍子をつけるように叩いた。「だいじょうぶ、うん、わかっているから」と拍子に合わせて、やわらかい声で言った。

美代子の隣に座ったタケシは、噛む爪がなくなったので、爪の横の皮をがじがじと齧っていた。テツちゃんは一人でベンチから離れて、石蹴りをしている。

僕は足元に伸びる自分の影を見つめる。体が動くと、影も同じように動く。あたりまえのことなのに——あたりまえのことだから、胸が熱いものでいっぱいになった。

(重松清『その日のまえに』)

問一 波線部①「そっけなく」②「不意に」の語句の意味として最も適切なものを、それぞれの選択肢ア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 【ア 思いやりのない感じで イ なんのためらいもなく ウ 無表情のまま エ 迷惑そうに】
 ② 【ア どうしてよいかわからず イ 予想通り ウ とつぜん エ ゆっくりと】

問二 空欄（A）～（F）に入る表現として最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使えないものとする。

- ア うれしそうに イ 面倒くさそうに ウ 自信たっぷりな エ 居心地悪そうに
 オ 不機嫌そうに カ 申し訳なさそうに

問三 傍線部1「間が持てなくなった美代子」とあるが、ここでの「間が持てない」の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 会話が途切れがちで不自然になってしまった場の空気に耐えきれない
 イ 早くガンリユウに色紙を渡してあげたいと焦る気持ちを抑えられない
 ウ 目を合わせようとしない振り舞いに強い不満を抱かずにはいられない
 エ 自分勝手なガンリユウの行動をじっと待っていることに我慢できない

(問題は5ページへ続く)

〔注意〕解答はすべて別紙解答用紙に記入し、問題も提出すること。

平成三十年二月十日実施 鶴沼高等学校

問四 傍線部2「きれいな言葉」の意味するものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手を実際に元気づける力のある言葉。 イ 音の響きが耳に心地よい言葉。
ウ 表面的な善意でつくられた聞こえのよい言葉。 エ 乱れなく意思の統一された整った言葉。

問五 傍線部3「胸がどきんとした」ことの原因として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おばあさんの「タカコちゃん」という呼び方に、ガンリュウの本名を意識させられて、普段自分たちが彼女のことを「ガンリュウ」と呼んでいることに罪悪感を覚えると同時に、おばあさんや先生からそんなあだ名をつけたことを怒られるのではないかと 瞬間的に恐れたから。
イ 普段「僕」たちが呼んでいたガンリュウという名ではなく、聞き慣れない「タカコ」という本名で呼ばれているのを聞いて、彼女が急に遠い存在になってしまったように感じ、もう自分たちと一緒に遊んだり話したりできなくなってしまうのではないかという衝動的な不安に襲われたから。
ウ 長い時間を一緒に過ごしているながら、今までクラスメイトの本名を知らなかった自分がふがいないと恥ずかしいと感じ、もう彼女は昔の呼び名「ガンリュウ」として僕たちと一緒に遊んだりケンカしたりいがみあったりすることを避けてしまうにちがいないと思われたから。
エ 無言のまま、じつと自分たちの描いた色紙を見つめるガンリュウを見て、自分たちが無意識に色紙に記してしまったうわべだけの優しさ、体裁だけのきれいごとを彼女が感じ取っていると気づき、重苦しくのしかかる罪悪感に押しつぶされそうになっているから。

問六 傍線部4「奥歯を噛みしめる」とあるが、この場の「僕」の心情として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 安易ななぐさめや励ましを色紙にしたためてしまった自分に対する後悔の気持ち。
イ ガンリュウを不快にさせた今回のお見舞いを提案した先生に対する怒りの気持ち。
ウ 男子のように活気にあふれていたガンリュウの体をむしばむ病気をうらむ気持ち。
エ 普段は掛けないような優しい言葉を書いたことを恥ずかしく思う気持ち。

問七 傍線部5、6にあるように「僕」の記憶は断片的であるが、それはなぜだと考えられるか。最も適切と思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ガンリュウの変わり果てた姿を目にして感じた、早くこの場から立ち去りたいという強い気持ちが、帰途に起こった出来事の記憶だけを鮮明に残したから。
イ ガンリュウのお見舞いに行った日のことを思い出している現在と、当時との時間的な隔たりが非常に大きいため記憶が薄れてしまい、多くの思い出が忘れられてしまったから。
ウ まだ幼かった子どもの心には、ふざけていた友だちのユーモラスな姿や、おやつにもらったリングゴ、クラスメイトの印象的な行動などしか記憶に残らなかったから。
エ ガンリュウの涙を目にし、彼女の抱える苦しみにそぐわない色紙を渡したことへの後悔を強く感じたことで、彼女に目を向けられなくなり、彼女に関する記憶だけが蓄積されなかったから。

問八 次の本文の表現について四人の生徒が論じ合っている場面である。誤ったことを言っている人物として最も適切なものを、A～Dから一つ選び、記号で答えなさい。

- Aさん 「私はおばあさんの口調に優しくおだやかな印象を受けました。語末に使われた『ねえ』や、『……』という表現にも温かく柔らかな口調とゆつたりとした話し方が表されていたように思います。」
Bさん 「僕は小学生たちの動作にも作者の工夫がなされていたように思う。爪を噛む仕草や石蹴りをする姿で彼らの心中に生まれた心苦しさとまどい、やるせなさを表現することで、未熟で不器用な子どもの目線を読者に体験させようとする狙いがあったんじゃないかな。」
Cさん 「そうね。その反面、地の文では『プリントが配られるように』とか『雪が降り積もるように』『軽く拍子をつけるように』などのように隠喩を多用している。子ども目線の場面描写で作品が単純、幼稚になりすぎないように、論理的な説明を加えているのね。」
Dさん 「僕はやはり作家の表現力にあらためて驚いた。セリフの一つ一つにも登場人物の特徴や人柄を読み取れるように、まるでドラマを見ているように楽しめたよ。今回の小説は主人公の一人称視点で描かれているから、読者は「僕」の立場に入り込んで場面の臨場感を体験できるんだろう。」

(問題は6ページへ続く)

〔注意〕解答はすべて別紙解答用紙に記入し、問題も提出すること。

平成三十年二月十日実施 鶴沼高等学校

〔四〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大納言行成卿、いまだ※1殿上人にておはしける時、実方中将いかなる憤りかありけん、殿上に参り会ひて、いふこともなく、行成の冠を打ち落として、小庭に投げ捨てけり。行成少しも騒がずして、主殿司（このもりつかさ）を召して、「冠取りて参れ。」とて、冠して、守刀より※2かうがい抜き取りて、※3鬢（びん）かいつくろひて、^aゐなほりて、「いかなることにて候ふやらんたちまぢにかうほどの乱罰にあづかるべきことこそ覚え侍らね。その故を承りて、^bのちのことにや侍るべからん。」と、^cことうるはしういはれけり。実方はしらけて逃げにけり。折しも※4主上、※5小部（こじとみ）より御覧じて、「行成は1いみじき者なり。かく2おとなしき心あらんとこそ思はざりしか。」とて、そのたび※6蔵人頭空きたりけるに、多くの人を越えてなされにけり。実方をば中将を召して、「※7歌枕見て参れ。」とて、陸奥国に流しつかはされける。3やがてかしこにて失せにけり。実方、蔵人頭にならでやみにけるを恨みて、執とまりて雀となりて、殿上の※8小台盤（こたいばん）にみて、台盤を食ひけるよし人いひけり。

『十訓抄』

注釈

※1 「殿上人」…清涼殿（天皇の日常生活の場所）に昇殿を許された者。

※2 「かうがい」…整髪（せいぱつ）の道具。

※3 「鬢」…耳の上の髪。

※4 「主上」…天皇。

※5 「小部」…清涼殿にある格子のついた小窓。

※6 「蔵人頭」…蔵人所（蔵人が勤務する役所）の長官。

※7 「歌枕」…和歌によく詠まれる地名。

※8 「小台盤」…宮中や貴族の家などで、食物を盛った食器などを載せる台。

問一 波線部 a 「ゐなほり」 b 「ことうるはしう」の読み方を、現代仮名遣いの平仮名でそれぞれ答えなさい。

問二 二重傍線部 A 「ん」 B 「しか」の活用形を、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 連体形 エ 已然形

問三 傍線部 1 「いみじき者」の解釈として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 立派な者 イ 礼儀正しい者 ウ 気性の荒い者 エ 正直な者

問四 傍線部 2 「おとなしき心」とは、誰のどのような心であるか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 行成を驚かせたいと思い、冠をたたき落とした実方の樂觀的な心。
 イ 実方に冠をたたき落とされたが、言い返すことができない行成の臆病な心。
 ウ 実方に突然冠をたたき落とされても、冷静に対処した行成の分別のある心。
 エ 行成に役職を奪われたことを恨み続け、雀になってしまった実方の執念深い心。

問五 傍線部 3 「やがて」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア きつと イ そのまま ウ むやみに エ しばらくして

問六 この文章の最後には主題となる一文が入る。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 欲深い心に対する戒め イ 主上の観察眼の鋭さ
 ウ 先を見通すことの難しさ エ 我慢することの大切さ

以上